平成29年改訂学習指導要領の趣旨を踏まえた
学習評価の進め方

小学校　図画工作科

この資料は、平成29年改訂学習指導要領（以下、学習指導要領）に基づく学習評価を円滑に進めていくための手引きとして、国立教育政策研究所の「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」（以下、「参考資料」）の考え方を基に、佐賀県教育センターが作成したものです。各学校における、指導と評価の一体化に向けた取組の推進にぜひお役立てください。

目次

1　学習評価の基本的な考え方……1
2　学習評価の観点……1
3　小学校図画工作科における評価の観点……2
4　小学校図画工作科における学習評価の進め方と考え方……2
5　小学校図画工作科の目標、内容及び育成する資質・能力……3
6　小学校図画工作科における評価の観点及びその趣旨……4
7　小学校図画工作科における「内容のまとまり」……6
8　小学校図画工作科における観点ごとの評価及び評価規準作成のポイント……6
9　小学校図画工作科における学習評価の事例……9
10　Q＆A……25

令和３年１月　佐賀県教育センター

1　学習評価の基本的な考え方

○学習評価とは

児童生徒の資質・能力を育成するために、目標に照らして児童生徒一人一人の学習状況を的確に把握すること

○学習評価を行う上で重要なポイント

① 児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと
② 教師の指導改善につながるものにしていくこと
③ これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと

学習評価を行うに当たっては、児童生徒一人一人の資質・能力を育成できるようにすることが大前提です。そのためには、児童生徒の進歩の状況や教科等の目標の実現状況を適切に把握することが必要です。把握した内容は、児童生徒にフィードバックして児童生徒の学習改善につなげられるようにし、教師は自身の指導改善につなげます。このことなくして児童生徒一人一人の資質・能力の育成は望めません。つまり、学習評価を行う上で、「普段の授業の不断の見直し」が不可欠だと言えます。

○学習評価の機能

指導に生かす評価･･･児童生徒一人一人の学習状況を把握し、児童生徒の学習改善や教師の指導改善につなげるための評価のこと

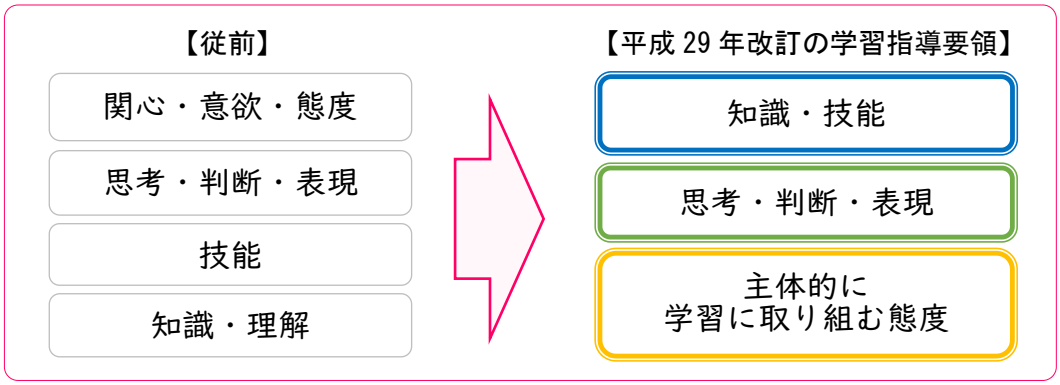
指導に生かす評価の場面は、随時存在します。児童生徒の学習状況を把握し、「おおむね満足できる」状況(Ｂ)以上になることを目指して、必要な指導を適宜行います。

記録に残す評価･････観点別学習状況の評価を総括する際の資料となるよう、学習状況を記録する評価のこと

記録に残す評価の場面は、毎時間設定する必要はありません。児童生徒全員の評価を記録に残す場面を精選することが重要です。単元や題材のまとまりの中で、評価規準に照らして、児童生徒の観点別学習状況を把握し、記録します。

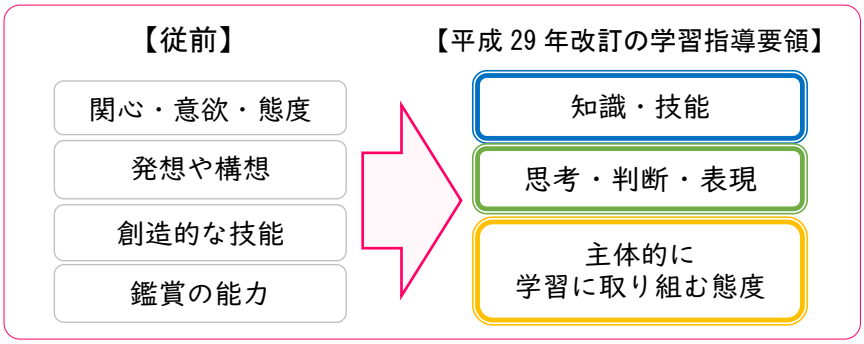
2　学習評価の観点

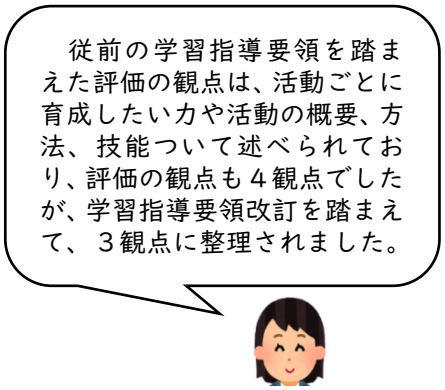
学習指導要領では、各教科等の目標や内容が、育成を目指す資質・能力の三つの柱を基に整理されました。目標や内容の整理を踏まえ、小・中・高等学校の各教科を通じて、評価の観点も４観点から３観点に整理されました(下図参照)。



3　小学校図画工作科における評価の観点

小学校図画工作科においての評価の観点は、以下のように４観点から３観点に整理されています。





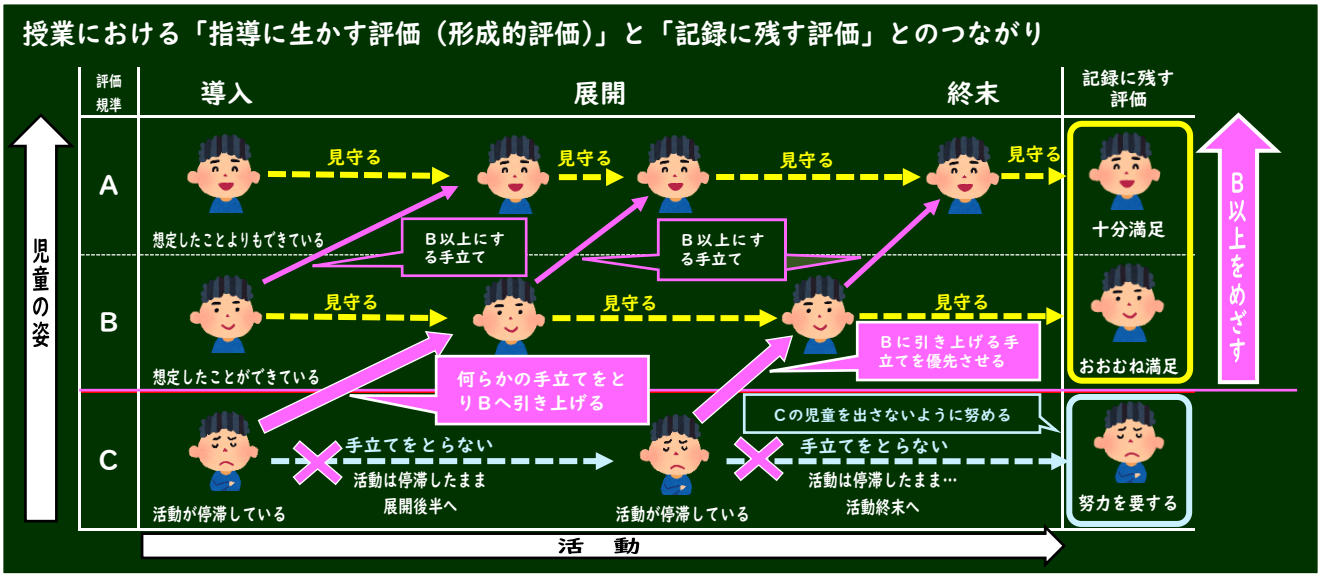
4　小学校図画工作科における学習評価の進め方と考え方

観点別学習状況の評価を行う際は、下の進め方（手順）の前に、まず、学習指導要領の目標や内容、「内容のまとまりごとの評価規準」の考え方等を踏まえ、年間の指導と評価の計画を確認することが重要です。

(1) 題材における観点別学習状況の評価の進め方（手順）

手順	留意点
①題材の目標の設定	○　学習指導要領の目標や内容、学習指導要領解説等を踏まえて設定します。 ○　児童の実態、前題材までの学習状況等を踏まえて設定します。
②題材の評価規準の作成	○　題材の評価規準は、参考資料に示された「内容のまとまりごとの評価規準（例）」を基に題材の内容に合わせて作成することが考えられます。
③「指導と評価の計画」の作成	○　①②を踏まえ、「指導と評価の計画」を作成します。 ○　「指導と評価の計画」を作成する際の題材の評価規準、評価の方法、留意点等を示す際は、次のようなことを意識することが重要です。 ・児童の学習の実現状況を見取るための題材の評価規準を適切に位置付けます。 ・児童の学習の実現状況を見取るための評価の方法や対象を示します。 ・題材の観点別学習状況の評価の方法や留意点等について示します。 ・授業の中で評価規準を通して、児童の学習の実現状況を見取り、児童の学習改善や教師の指導改善につなげる留意点等について示します。
授業・評価	授業実践を行います。「指導と評価の計画」に沿って観点別学習状況の評価を行い、児童の学習改善や教師の指導改善につなげます。
④観点ごとの総括	○集めた評価資料やそれに基づく評価結果などから、観点別学習状況の評価の総括（A、B、C）を行います。
○評定への総括	○観点別学習状況の評価の評定への総括は、各観点の評価結果をA、B、Cの組合せ、又は、A、B、Cを数値で表したものに基づいて行います。

（2）授業実践時における学習評価と児童の学習改善、教師の指導改善の考え方



児童が本時の目標を達成するために、「指導に生かす評価（形成的評価）」において、児童の活動時に把握した学習状況を基に、教師の手立てにつなげるといいのですね！
問いかける、言葉かけをする、励ますなどの手立てを取り、「C努力を要する」児童を出さないようにし、できる限り全ての児童を「Bおおむね満足できる」状態にしたいものです。

5　小学校図画工作科における目標、内容及び育成する資質・能力

（1）小学校図画工作科の目標

小学校図画工作科の領域は、「A表現」、「B鑑賞」及び〔共通事項〕で構成されています。この二つの領域と〔共通事項〕を通して育成する資質・能力が、(1)「知識及び技能」、(2)「思考力、判断力、表現力等」、(3)「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理されました。

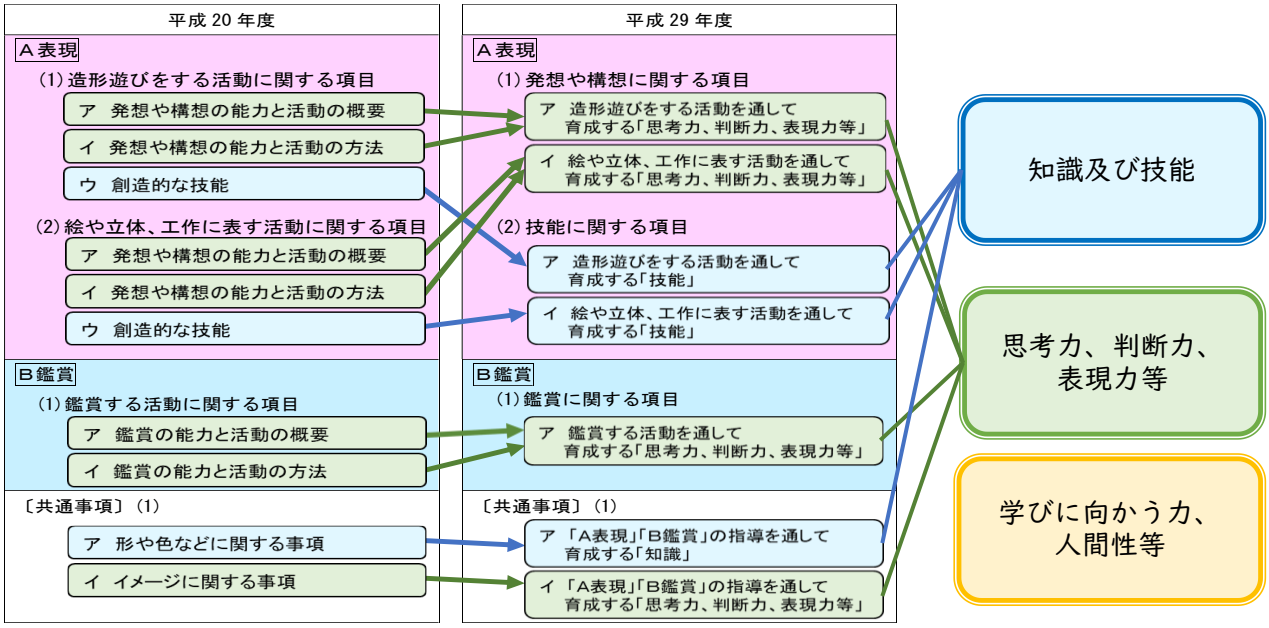
	目標
	表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
知識及び技能 ※1	(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解する［知識］とともに、材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりする［技能］ことができるようにする。
思考力、判断力、表現力等　※2	(2) 造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をしたり（「A表現」）、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたり（「B鑑賞」）することができるようにする。
学びに向かう力、人間性等　※3	(3) つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培う。

※1　(1)「知識及び技能」では、前半部分が「知識」、後半部分が「技能」の目標について述べられています。
※2　(2)では、前半部分で「A表現」、後半部分で「B鑑賞」における「思考力、判断力、表現力等」の目標について述べられています。
※3　(3)の「学びに向かう力、人間性等」には、①「主体的に学習に取り組む態度」として観点別学習状況の評価を通じて見取ることができる部分と、②観点別学習状況の評価や評定にはなじまず、こうした評価では示しきれない部分があるとされています。
　そのため、評価の観点は、「主体的に学習に取り組む態度」と示されています。

各学年の目標は、学習指導要領でご確認ください。

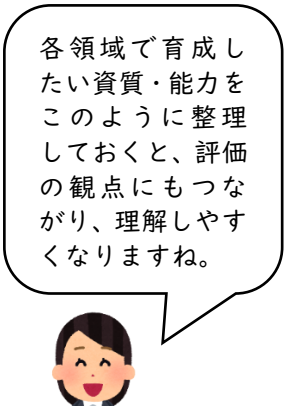
(2) 内容及び育成する資質・能力

内容についても三つの資質・能力を基に、再構成されています。



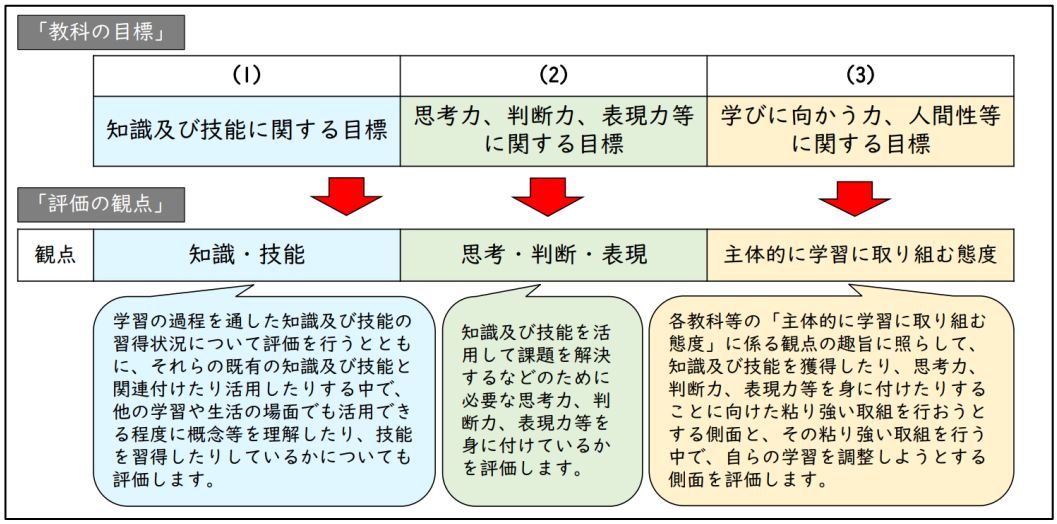
資質・能力をベースに再構成された内容を基に、各領域で育成する資質・能力を表にまとめると下のようになります。

領域	育成する資質・能力	〔共通事項〕
「A表現」	進んで形や色、材料などに関わりながら、つくったり表したりする造形活動を通して育成する資質・能力 思考力、判断力、表現力等 技能	表現及び鑑賞の活動の基となり、形や色などを活用したコミュニケーションの基盤となる、共通に必要となる資質・能力 知識：自分の感覚や行為を通して理解した、形や色などの造形的な特徴 思考力、判断力、表現力等
「B鑑賞」	自分の感覚や体験などを基に、自分たちの作品や親しみのある美術作品などを見たり、自分の見方や感じ方を深めたりする鑑賞活動を通して育成する資質・能力 思考力、判断力、表現力等	様々な対象や事象について、自分なりのイメージをもつこと



6 小学校図画工作科における評価の観点及びその趣旨

「教科の目標」と「評価の観点」との関係は、以下の通りです



(1) 評価の観点及びその趣旨

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	・対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解している。[知識] ・材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりしている。[技能]	形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもちながら、造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考えるとともに、創造的に発想や構想をしたり(「A表現」)、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたり(「B鑑賞」)している。	つくりだす喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

目標と同様に、評価の観点も「知識・技能」や「思考・判断・表現」の「A表現」「B鑑賞」に分かれています。

(2) 学年別の評価の観点の趣旨

学年	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学年及び第2学年	・対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して気付いている。 ・手や体全体の感覚などを働かせ材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりしている。	形や色などを基に、自分のイメージをもちながら、造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて考えるとともに、楽しく発想や構想をしたり、身の回りの作品などから自分の見方や感じ方を広げたりしている。	つくりだす喜びを味わい楽しく表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている。
第3学年及び第4学年	・対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して分かっている。 ・手や体全体を十分に働かせ材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりしている。	形や色などの感じを基に、自分のイメージをもちながら、造形的なよさや面白さ、表したいこと、表し方などについて考えるとともに、豊かに発想や構想をしたり、身近にある作品などから自分の見方や感じ方を広げたりしている。	つくりだす喜びを味わい進んで表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている。
第5学年及び第6学年	・対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解している。 ・材料や用具を活用し、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりしている。	形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもちながら、造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考えるとともに、創造的に発想や構想をしたり、親しみのある作品などから自分の見方や感じ方を深めたりしている。	つくりだす喜びを味わい主体的に表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている。

指導内容や評価の観点の趣旨は、各学年の発達の段階に合わせた表記になっています。下線部は、各学年のキーワードとして着目すると、目標や評価規準を作成する際に分かりやすいですね。

7　小学校図画工作科における「内容のまとまり」

観点別学習状況の評価を行う際は、学習指導要領の目標や内容、内容のまとまりを踏まえ、年間の指導と評価の計画を確認することが重要です。その上で、「内容のまとまりごとの評価規準」の考え方等を踏まえて学習評価を進めることが考えられます。

小学校図画工作科における内容のまとまり

第１学年及び第２学年
- 造形遊び・・・・・・「Ａ表現」(1)ア、(2)ア、〔共通事項〕(1)ア、イ
- 絵や立体、工作・・・「Ａ表現」(1)イ、(2)イ、〔共通事項〕(1)ア、イ
- 鑑賞・・・・・・・・「Ｂ鑑賞」(1)ア、〔共通事項〕(1)ア、イ

第３学年及び第４学年
- 造形遊び・・・・・・「Ａ表現」(1)ア、(2)ア、〔共通事項〕(1)ア、イ
- 絵や立体、工作・・・「Ａ表現」(1)イ、(2)イ、〔共通事項〕(1)ア、イ
- 鑑賞・・・・・・・・「Ｂ鑑賞」(1)ア、〔共通事項〕(1)ア、イ

第５学年及び第６学年
- 造形遊び・・・・・・「Ａ表現」(1)ア、(2)ア、〔共通事項〕(1)ア、イ
- 絵や立体、工作・・・「Ａ表現」(1)イ、(2)イ、〔共通事項〕(1)ア、イ
- 鑑賞・・・・・・・・「Ｂ鑑賞」(1)ア、〔共通事項〕(1)ア、イ

参考資料に示された「内容のまとまりごとの評価規準（例）」を基に、題材の内容に合わせて評価規準を作成することが考えられます。

8　小学校図画工作科における題材の観点ごとの評価規準作成及び評価のポイント

題材における観点ごとの評価規準作成の際は、「内容のまとまりごとの評価規準」から作成する方法と、「内容のまとまりごとの評価規準」を踏まえ、題材の目標から作成する方法が考えられます。

しかし、題材の目標から作成する方法については、題材の目標を観点ごとに示さず、全体を一文にした場合、「内容のまとまりごとの評価規準」に係る内容において、省略する箇所が生じることが考えられます。そのため、「内容のまとまりごとの評価規準」から作成することが望ましいと考えられます。

(1) 題材における観点ごとの評価規準作成のポイント

ア　小学校図画工作科における「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する際の基本的な手順

学習指導要領に示された教科及び学年の目標を踏まえて、「評価の観点及びその趣旨」が作成されていることを理解した上で、

① 「内容のまとまり」と「評価の観点」との関係を確認する。

② 【観点ごとのポイント】を踏まえ、「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する。

①　「内容のまとまり」と「評価の観点」との関係を確認する。

例　＜第３学年及び第４学年の「造形遊び」の設定＞

「内容のまとまり」
第３学年及び第４学年
造形遊び・・・・・・「Ａ表現」(1)ア、(2)ア、〔共通事項〕(1)ア、イ

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
［知識］ ・〔共通事項〕(1)ア「知識」に関する事項 ［技能］ ・「Ａ表現」(2)ア「技能」に関する項目	［共通事項］(1)イ ・「思考力、判断力、表現力等」の自分のイメージをもつことに関する事項 ・「Ａ表現」(1)ア「思考力、判断力、表現力等」の「発想や構想」に関する項目	※指導内容については、示されていないため、第３学年及び第４学年の目標(3)を参考にする。
「評価の観点」		第３学年及び第４学年の観点の趣旨のうち、「主体的に学習に取り組む態度」に関わる部分を用いて作成する
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

②【作成する際の観点ごとのポイント】を踏まえ、「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する。

観点	【作成する際の観点ごとのポイント（・）】
知識・技能	［知識］ ・全ての題材において、低学年の「形や色など」、中学年の「形や色などの感じ」、高学年の「形や色などの造形的な特徴」については、指導計画の作成と内容の取扱い２(3)「〔共通事項〕のアの指導」を参考にして、題材に即して具体的に示します。 ・全ての題材において、「自分の感覚や行為を通して」については、題材に即して具体的に示すことも考えられます。 ［技能］ ・全ての題材において、全学年の「材料や用具」、中学年、高学年の「前学年までの材料や用具」については、指導計画の作成と内容の取扱い２(6)「材料や用具」を参考にして、題材に即して具体的に示します。 文末は、学習の状況を評価することを踏まえて「～している」と表記します。
思考・判断・表現	・全ての題材において、低学年の「形や色など」、中学年の「形や色などの感じ」、高学年の「形や色などの造形的な特徴」については、指導計画の作成と内容の取扱い２(3)「〔共通事項〕のアの指導」を参考にして、題材に即して具体的に示します。 「Ａ表現」 ＜造形遊びをする活動＞ ・低学年の「身近な自然物や人工の材料の形や色など」、中学年の「身近な材料や場所など」、高学年の「材料や場所、空間などの特徴」については、指導計画の作成と内容の取扱い２(6)「材料や用具」などを参考にして、題材に即して具体的に示します。 ＜絵や立体、工作に表す活動＞ ・低学年の「感じたこと、想像したこと」、中学年の「感じたこと、想像したこと、見たこと」、高学年の「感じたこと、想像したこと、見たこと、伝え合いたいこと」については、題材に即して選択し、さらに具体的に示します。 「Ｂ鑑賞」 ＜鑑賞をする活動＞ ・低学年の「自分たちの作品や身近な材料など」、中学年の「自分たちの作品や身近な美術作品、製作の過程など」、高学年の「自分たちの作品、我が国や諸外国の親しみのある美術作品、生活の中の造形など」は、題材に即して選択し、さらに具体的に示します。 文末は、学習の状況を評価することを踏まえて「～している」と表記します。
態度	・題材に即して「表現する学習活動」や「鑑賞する学習活動」を具体的に示します。表現及び鑑賞の活動を相互に関連させた題材では、「表現したり鑑賞したりする活動」と示します。 文末は、学習の状況を評価することや児童の意志的な側面も評価することから「～しようとしている」と表記します。

①②の手順で作成した「内容のまとまりごとの評価規準」（第３学年及び第４学年の「造形遊び」）

題材名「だんだん変身！　だんボール」

材料：段ボール　　用具：段ボールカッター、ガムテープ

「内容のまとまりごとの評価規準」

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・自分の感覚や行為を通して、形や色などの感じが分かっている。〔共通事項〕(1)ア　知識 ・段ボールや段ボールカッター、ガムテープを適切に扱うとともに、前学年までの材料や用具についての経験を生かし、組み合わせたり、切ってつないだり、形を変えたりするなどして、手や体全体を十分に働かせ、活動を工夫してつくっている。「A表現」(2)ア　技能	・形や色などの感じを基に、自分のイメージをもちながら、〔共通事項〕(1)イ 段ボールや段ボールカッター、ガムテープなどを基に造形的な活動を思い付き、新しい形や色などを思い付きがら、どのように活動するかについて考えている。「A表現」(1)ア	・つくりだす喜びを味わい、進んで表現する学習活動に取り組もうとしている。 第３学年及び第４学年の観点の趣旨における「主体的に学習活動に取り組む態度」に関わる部分

その題材で使用する「材料や用具」は、学習指導要領解説の指導計画の作成と内容の取扱い２(6)「材料や用具」を参考にし、題材に即して具体的に示したらいいのですね！

(2) 小学校図画工作科における観点ごとの評価のポイント

観点	観点ごとの評価のポイント（・）
知識・技能	［知識］ ・表現及び鑑賞の活動において、児童が自分の感覚や行為を通して、一人一人が感性や想像力を働かせて様々なことを感じ取ったり考えたりし、自分なりに理解したり、何かをつくりだしたりする際に捉えた形や色などの造形的な視点を用いている姿を見取ります。単に、形や色などの名前を覚えるような知識のみを示すものではありません。 ［技能］ ・表現の活動において、手や体全体の感覚を働かせ、材料や用具の特徴を生かしながら、自分の思いを基に、材料を用いたり用具を使ったりして、造形的な活動やつくり方を工夫したり表し方を工夫したりして表している姿を見取ります。
思考・判断・表現	「A表現」 ・表現の活動を通して、自分にとって新しいものやことをつくりだすことができるように、形や色などを基に想像を膨らませたり、造形的な活動や表したいことを思い付いたりして発想している姿や、どのように活動したり表したりするかを考えるなど構想している姿を見取ります。 「B鑑賞」 ・鑑賞の活動を通して、見たり感じたりする対象のよさや美しさなどを感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深め、自分なりに対象や事象を味わったり、新しい見方や感じ方をつくりだしたりしている姿を見取ります。
態度	・「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」を身に付けようとしたり、発揮しようとしたりすることへ学習活動に向かっている姿を見取ります。例えば、表現活動では、試行錯誤を繰り返し粘り強く取り組んだり、よりよい表現を目指して構想や技能を工夫改善したりしていく姿を、鑑賞活動では、作品などを鑑賞し、形や色などの造形的な視点を活用しながら造形的なよさや美しさを感じ取ろうとしたり、作者の心情や表現の意図、工夫などについて考えようとしたりするなどの意欲や態度などを見取っていきます。

※「知識・技能」における「知識及び技能」、「思考・判断・表現」における「思考力・判断力・表現力等」などの資質・能力についての詳細は、学習指導要領解説小学校図画工作科編（P12～）をご参照ください。

９　小学校図画工作科における評価の事例

事例１　　キーワード…低学年における造形遊びをする活動の指導と進め方、活動時における児童の見取り方、「思考・判断・表現（発想・構想）」の評価

「造形遊びをする活動」と「絵や立体、工作に表す活動」の違いは何ですか。

「Ａ表現」は、「造形遊びをする活動」と「絵や立体、工作に表す活動」に分かれています。
二つの活動は、活動目的が違うので、設定する目標や指導内容、評価規準が変わってきます。

○造形遊びをする活動…児童の一連の行為を止めないようにする。

主題や内容をあらかじめ決めず、児童が材料や場所、空間などと出会い、それらに関わるなど自分で目的を見付けて発展させていく。

造形遊びは、材料や場所、空間から発想していくのですね。

○絵や立体、工作に表す活動…必要な場面で、目的や主題を確認する時間を取ってもよい。

およその目的や主題（テーマ）を基に、児童が発想や構想を行い、自分なりの技能を活用しながら表し方を工夫して思いを実現していく。

※造形遊びをする活動を設定する上で、重要な各学年の「発想」「行為」のキーワード
低学年…「材料」から発想し、「並べる、つなぐ、積む」
中学年…「材料や場所」から発想し、「組み合わせる、切ってつなぐ、形を変える」
高学年…「材料や場所、空間などの特徴」から発想し、「方法などを組み合わせる」

1　題材名　「いろいろテープ　（造形遊びをする活動）」

2　題材の概要

本題材は、第２学年において、様々な色のビニールテープを床や机などに並べたり、つないだり、貼ったりしてできる形や色などを基に造形遊びをする活動を通して資質・能力の育成を目指す題材です。

3　題材の目標

（1）　自分の感覚や行為を通して、いろいろな形や色などに気付き、ビニールテープやはさみに十分に慣れるとともに、並べたり、つないだり、貼ったりするなど手や体全体の感覚を働かせ、活動を工夫してつくる。

（2）　ビニールテープの形や色などを基に造形的な活動を思い付き、感覚や気持ちを生かしながら、どのように活動するかについて考える。

（3）　楽しくビニールテープで造形遊びをする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しい生活を創造しようとする。

4　題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現（発想や構想）	主体的に学習に取り組む態度
・自分の感覚や行為を通して、形や色などに気付いている。 ・ビニールテープやはさみに十分に慣れるとともに、並べたり、つないだり、貼ったりするなど手や体全体の感覚などを働かせ、活動を工夫してつくっている。	ビニールテープの形や色などを基に、自分のイメージをもちながら、造形的な活動を思い付き、感覚や気持ちを生かしながら、どのように活動するかについて考えている。	つくりだす喜びを味わい楽しくビニールテープで造形遊びをする学習活動に取り組もうとしている。

5　材料・用具　　ビニールテープ、はさみ

6　題材の指導と評価の計画（２時間）

○･･･題材の評価規準に照らして、適宜、児童の学習状況を把握し、指導に生かします。
◎･･･題材の評価規準に照らして、全員の学習状況を把握し、記録に残します。

時間	●学習のねらい　・学習活動	知	技	思		態	留意点等
				発想構想	鑑賞		
1・2	●ビニールテープの形や色などに気付き、自分のイメージをもってビニールテープの形や色などを基に、どのような造形的な活動ができそうかを考える。 ・様々な色のビニールテープで造形遊びを行う。	○ 観察 発言	○ 観察 発言	◎ 観察 発言 ワークシート		◎ 観察 発言 ワークシート	「知識・技能」の評価については、児童の活動の様子を観察する、問いかけるなどして、児童の学習状況を把握し、適宜、指導に生かします。 「思考・判断・表現（発想や構想）」の評価については、児童の活動の様子を観察する、問いかける、ＩＣＴ機器を用いて記録する、ワークシートを用いるなどして、「知識・技能」を関連付けて全員の学習状況を把握し、学習評価を行い、記録に残します。 「主体的に学習に取り組む態度」については、活動を通しての観察、授業後や題材終末の振り返り、ワークシートなどを用いて、全員の学習状況を把握して学習評価を行い、記録に残します。

7　観点別学習状況の判断の例

題材の評価規準		☆Ｂの具体例　◆Ｃへの手立て
知識	自分の感覚や行為を通して、形や色などに気付いている。	☆ビニールテープの形や色などにこだわって活動を行っている。 ◆ビニールテープがつくりだす形や色などについて問いかける。
技能	ビニールテープやはさみに十分に慣れるとともに、並べたり、つないだり、貼ったりするなど手や体全体の感覚などを働かせ、活動を工夫してつくっている。	☆ビニールテープの形や色などを基に、並べたり、つないだり、貼ったりするなど、はさみを使って活動を工夫してつくっている。 ◆表したいことに合わせて表し方を工夫して表すことができるように、表したい形や色などのイメージに合わせてビニールテープを使うよう促したり、はさみの使用方法について補助的に説明したりするなど、表現に適した方法などを一緒に考える。
思考・判断・表現（発想や構想）	ビニールテープの形や色などを基に、自分のイメージをもちながら、造形的な活動を思い付き、感覚や気持ちを生かしながら、どのように活動するかについて考えている。	☆ビニールテープの形や色などを基に、自分のイメージをもちながら、友達との対話を通して造形的な活動を思い付くなど、どのような活動をするかについて考えている。 ◆ビニールテープの新たな並べ方やつなぎ方、貼り方などを問いかけ、一緒に考える。
態度	つくりだす喜びを味わい楽しくビニールテープで造形遊びをする学習活動に取り組もうとしている。	☆楽しく友達と話したり、一緒に活動したりするなどし、ビニールテープで造形遊びを行ったり、活動したことをワークシートに記述したりしている。 ◆周囲の友達がどのような活動をしているかを紹介し、どのような活動に取り組めそうか尋ねる。

8　観点別学習状況の評価の進め方

造形遊びでは、単独であったり、複数の児童が協力したりするなど児童の活動形態は多様です。また、児童の活動は活動とともに変化し、結果として残らないことが多く見られます。

以下の二つのポイントを踏まえて、使用するＩＣＴ機器の特徴やワークシートの形式等を考慮し、活用する場面や方法を想定しておきましょう。

一人一人が何を感じ、考え、活動しているのか、多様な評価方法を用い、適切な場面を捉えて評価していくことが大切です。

協同してつくりだす活動においては、個に着目する姿勢を大事にしつつ、観察を中心にしながら必要に応じて児童と対話を行い、全員の学習状況を把握し、記録に残す場面を十分に検討することなどが重要です。

(1)　ＩＣＴ機器の活用

造形遊びをする活動では、児童が材料や場所、空間などの特徴から造形的な活動を思い付いて活動します。ＩＣＴ機器を活用することで、「つくり、つくりかえ、つくる」という児童のつくる過程や活動の変容、特徴的な様子などを記録に残すことができます。

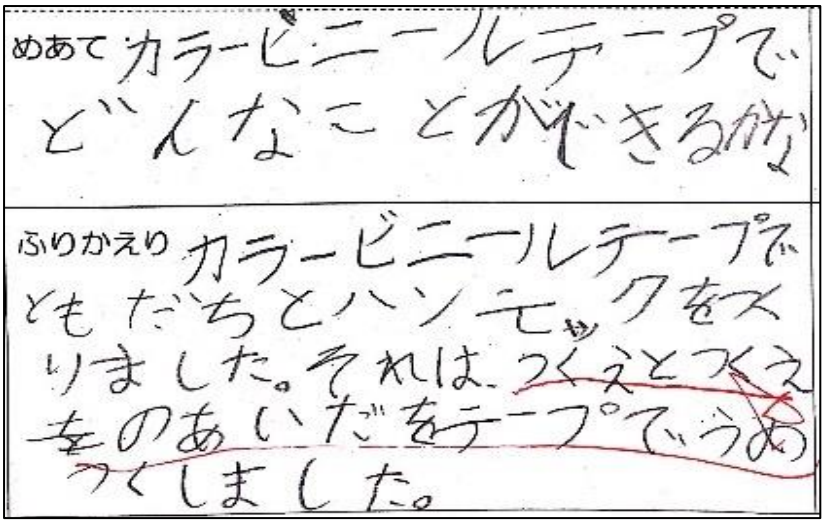
ＩＣＴ機器の特徴

ＩＣＴ機器	特徴
デジタルカメラ	静止画の記録に適している。教師は、児童の活動の様子を記録したり、児童は、自身の記録に役に立てたりし、指導や評価に生かすことができる。
ビデオカメラ	動画の記録に適している。映像から静止画を取り出したり、スロー機能やストップ機能を使って特徴的な様子を活動の終末時に提示したりし、指導や評価に生かすことができる。
タブレット端末	デジタルカメラと比べて画面が大きく、その場で画像を確認しやすい。グループなどの複数人で共有することに適している。また、静止画と動画の切替えも容易で児童にとっても扱いやすい。児童が撮影した画像を教師が見ることで、活動の流れや思考のプロセスを確認し、指導と評価に生かすことができる。
電子黒板	大画面であり、学級全体でデジタルカメラやビデオカメラ、タブレット端末で撮影した画像の共有に適している。特徴的な活動や活動前後の場所の変容を提示するなど指導に生かすことができる。

ＩＣＴ機器の特徴を生かしながら、評価の目的に合わせて活用することが重要なのですね。本題材では、デジタルカメラを用いて児童の様子を把握し、学習状況の記録を残しました。

(2)　ワークシートの活用

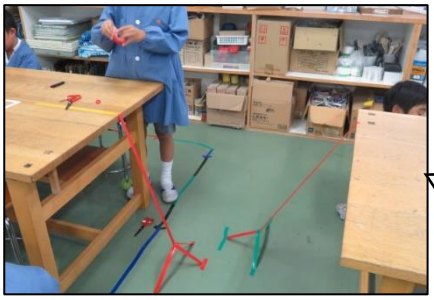
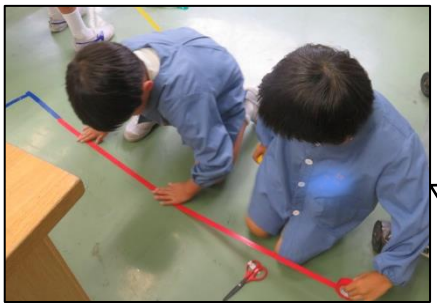
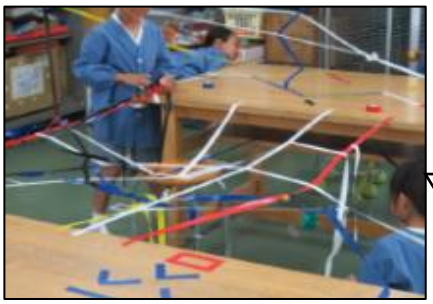
ワークシートは、児童の学習活動や自己評価の場であると同時に、評価として重要な資料です。しかし、毎時間必ず書かせたり、書き込むことに時間のかかる形式にしたりすると、表現活動の時間を削ることになります。頻繁に行うのではなく、発達の段階を踏まえた上で、用いる題材、活動場面での位置付け等を意識しながら、時間を費やす程度などに配慮する必要があります。



材料や場所の特徴を生かし、ビニールテープで埋め尽すなどの造形的な活動を思い付いたことを記述しています。

造形遊びをする活動では、児童の行為を止めないように努めることが基本です。教師の指示や説明が入ることによって、児童の思考や意欲の高まりなどを止めることになります。したがって、活動中にワークシート等に記述する場面を設定することができません。活動後に短時間で振り返ることができるような形式にしたり、児童の発達の段階を考慮したりしてワークシートを作成しましょう。

9　児童の活動の様子と「思考・判断・表現（発想や構想）」の評価の実際

児童の活動の様子	評価の実際（評価の方法等）
 ビニールテープの色に着目し、机上での並べ方やつなぎ方、貼り方などを試しています。	「知識」や「技能」の視点で、形や色などに着目し、工夫してつくっている様子を観察や対話から学習状況を把握し、指導に生かした。（観察、対話、画像）
 それまでの行為を通して気付いたビニールテープの「貼る」「伸びる」という材料の特徴や机と床の高低差を生かして、活動を広げています。	「知識」や「技能」の視点で、材料や場所の特徴などに着目し、工夫してつくっている様子を観察や対話から学習状況を把握し、指導に生かした。（観察、対話、画像）
 同じような活動をしている友達との対話を通して、思い付いた使う色や貼り方などの表し方を試しています。	「主体的に学習に取り組む態度」の視点で、友達との対話を基に思い付いた表し方を友達と話し合いながら、どのような造形活動ができそうかを考えている様子を観察して学習状況を把握し、記録に残した。（観察、対話、画像）
 二つの机の間にビニールテープを貼ってつなぐとクモの巣になるなど、材料と場所から発想し、形を意識して工夫した活動を思い付いています。	「思考・判断・表現（発想や構想）」の視点で、自分のイメージをもってビニールテープの形や色などを基に、どのような造形活動ができそうかを考えている様子を観察や対話から学習状況を把握し、記録に残した。（観察、対話、画像）
 友達との対話を通して、見る角度によって見方が変わることに気付いたことから、造形的な面白さや楽しさに浸っている様子がうかがえます。	「思考・判断・表現（発想や構想）」と関連付けて、学習活動全体を通して把握してきた「主体的に学習に取り組む態度」の学習評価を記録に残した。（観察、画像、ワークシート）

事例２　キーワード…独立して設定した鑑賞をする活動における「思考・判断・表現（鑑賞）」の「指導に生かす評価（形成的評価）」と「記録に残す評価」

自分たちの作品を鑑賞する以外に、鑑賞をする活動はありますか。

「Ｂ鑑賞」における「鑑賞をする活動」で育成する資質・能力
「思考力、判断力、表現力等」であり、自分たちの作品、我が国や諸外国の親しみのある美術などを活動の対象として示すとともに、造形的なよさや美しさなどについて感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めること

指導の効果を高めるために、児童一人一人の活動が能動的になるようにすることが大切です。

鑑賞

「Ａ表現」の活動と相互に関連させる
・「Ａ表現」の「絵や立体、工作に表す活動」において題材の終末時に自分たちの作品を鑑賞する活動を設定する
・「Ａ表現」の題材の導入時に、児童の表現の手立てとして設定する　など

独立して設定する
・身近な材料や美術作品、我が国や諸外国の親しみのある美術作品、生活の中の造形などを鑑賞する活動として単独で設定する　など

※鑑賞する活動を独立して設定する際の留意点　（学習指導要領解説 P106）
①児童がよさや美しさなどについて関心をもって感じ取ったり考えたりし、一人一人の感じ方や見方を深めることができるような内容であること
②鑑賞する対象は発達の段階に応じて児童が関心や親しみのもてる作品などを選び、作品や作者についての知識は結果として得られるものであること
③児童が対象について感じたことなどを言葉にしたり友人と話し合ったりするなど、言語活動を充実すること

１　題材名　「はこの中みは？ ～さわって 見て 感じとろう～」

２　題材の概要

本題材は、第３学年において、身近な民芸品であるお面を手や指先で触る鑑賞の活動を行った後、実際に目で見ながら触る鑑賞の活動を行います。二つの鑑賞活動を通して、児童が対象について感じたこと等を言葉で表したり友達と話し合ったりするなど言語活動を充実させることで、造形的な見方や感じ方を広げる資質・能力の育成を目指す題材です。

３　題材の目標

自分の感覚や行為を通して、民芸品のお面の形や色、質感などの感じが分かるとともに、身近な民芸品であるお面の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、自分の見方や感じ方を広げるなど、進んで鑑賞する活動に取り組む。

４　題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現（鑑賞）	主体的に学習に取り組む態度
自分の感覚や行為を通して、民芸品であるお面の形や色、質感などの感じが分かっている。	見ながら触って分かった形や色、質感などの感じを基に、自分のイメージをもちながら、身近な民芸品であるお面の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりして自分の見方や感じ方を広げている。	つくりだす喜びを味わい、進んで身近な民芸品であるお面を鑑賞する学習活動に取り組もうとしている。

5　材料・用具　　お面（触ることができる身近な民芸品）、箱など

6　題材の指導と評価の計画（１時間）

○･･･題材の評価規準に照らして、適宜、児童の学習状況を把握し、指導に生かします。
◎･･･題材の評価規準に照らして、全員の学習状況を把握し、記録に残します。

時間	●学習のねらい・学習活動	知	技	思		態	留意点等
				発想構想	鑑賞		
1	●見ながら触って分かった形や色、質感などの感じを基に、自分のイメージをもちながら、身近な民芸品であるお面の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。 ・箱に入った身近な民芸品のお面を触ったり、見て触ったりする鑑賞活動を行う。	○ 観察 発言 ワーク シート			◎ 観察 発言 ワーク シート	◎ 観察 発言 ワーク シート	「知識」の評価については、児童の活動の様子を観察する、問いかけるなどして、児童の学習状況を把握し、適宜、指導に生かします。 「思考・判断・表現（鑑賞）」の評価については、児童の活動の様子を観察する、問いかける、ＩＣＴ機器を用いて記録する、ワークシートを用いるなどして、「知識・技能」を関連付けて全員の学習状況を把握し、学習評価を行い、記録に残します。 「主体的に学習に取り組む態度」については、活動を通しての観察、授業後や題材終末の振り返り、ＩＣＴ機器を用いた記録、ワークシートなどを用いて、全員の学習状況を把握して学習評価を行い、記録に残します。

7　観点別学習状況の判断の例

題材の評価規準		☆Ｂの具体例　◆Ｃへの手立て
知識	自分の感覚や行為を通して、身近な民芸品であるお面の形や色、質感の感じなどが分かっている。	☆触ったり、見ながら触ったりする活動を通して、お面の形や色、質感などの感じが分かっている。 ◆身近な民芸品であるお面を触ったり見たりして、形や色、質感などの感じが分かるような問いかけや言葉かけを行う。
思考・判断・表現（鑑賞）	見ながら触って分かった形や色、質感などの感じを基に、自分のイメージをもちながら、身近な民芸品であるお面の造形的なよさや面白さなどについて、感じ取ったり考えたりして自分の見方や感じ方を広げている。	☆触るだけでなく、見ながら触って分かったお面の形や色、質感などの感じなどを基に、自分のイメージをもちながら、造形的なよさや面白さなどについて、感じ取ったり考えたりしたことを友達と伝え合い、ワークシートに言葉や絵で表すなど、自分の見方や感じ方を広げている。 ◆形や色、質感などの感じを基に、身近な民芸品であるお面の造形的なよさや面白さに目を向けることができるような問いかけや言葉かけを行う。
態度	つくりだす喜びを味わい、進んで身近な民芸品であるお面を鑑賞する学習活動に取り組もうとしている。	☆手や指先で触ったり、目で見たりする鑑賞の活動を通して、民芸品であるお面の形や色、質感などの感じを感じ取ったり、造形的なよさや面白さなどを、友達との対話を通して、進んで言葉や絵で表したりしている。 ◆身近な民芸品であるお面を触ったり見たりして分かった形や色、質感などの感じを尋ねる。

8　「思考・判断・表現（鑑賞）」の評価の実際と総括

(1)　児童の学習活動と評価の実際

<table>
<tr><th>時間</th><th>学習活動（・）</th><th>評価の実際（評価の方法等）★評価規準</th></tr>
<tr><td>Ⅰ（前半の活動）</td><td>・箱の中のお面を触る活動を通して、友達と対話しながら鑑賞活動を行う。

 </td><td>「知識」と関連付けて、作品を触って鑑賞している様子を、主に観察や対話から学習状況を把握し、指導に生かした。
（観察、対話、ワークシート）
触って気付いた形や質感などの感じを言葉で記述しています。
＜「指導に生かす評価（形成的評価）」の判定基準＞
★　手や指先の触覚を通して感じ取った、お面の形や質感などの感じについて、言葉や絵で表している。
A　手や指先の触覚を通して、感じ取ったお面の形や質感などの感じを基に、自分のイメージをもちながら造形的なよさや面白さについて、友達と話したり、ワークシートに言葉や絵で表したりしている。
B　手や指先の触覚を通して、感じ取ったお面の形や質感などの感じについて、言葉や絵で表している。
→　形や質感などの感じからイメージする、お面の造形的なよさや面白さを言葉や絵で表すよう促す。
C　お面を触っているが、言葉や絵で表していない。
→　手や指先の触覚を通して感じ取った、お面の形や質感などの感じについて尋ね、言葉や絵で表すよう促す。
手や指先で感じ取った形や質感の感じなどについて友達と対話しながら、造形的なよさや面白さを話し合っています。</td></tr>
<tr><td>Ⅰ（後半の活動）</td><td>・箱の中のお面を見ながら触る活動を通して、友達と対話しながら鑑賞活動を行う。

・触るだけでなく、実際に見ながら触ることで気付いたことや分かったことなどを学級全体で話し合う。
 </td><td>「知識」に関連付けて、作品を見ながら触って鑑賞している様子を、主に観察や対話から学習状況を把握し、記録に残した。
（観察、対話、ワークシート）
実際に見て触ることで、触っていた部分を確かめながら、触っていた凹凸に着色があり、イメージしていた形や色、質感の感じなどの違い、お面の造形的なよさや面白さなどを友達と話し合っています。
活動を振り返る場面での発話やワークシートの記述から、学習状況を把握し、記録に残した。　（観察、ワークシート）
触るだけのときと見ながら触ったときとの違いや気付き、また、触るだけでなく見ながら触ることで、分かったことや感じたことなどを学級全体で共有し、伝え合っています。</td></tr>
</table>

＜「記録に残す評価」の判定基準＞

★　見ながら触って分かった形や色、質感などの感じを基に、自分のイメージをもちながら、身近な民芸品であるお面の造形的なよさや面白さなどについて、感じ取ったり考えたりして自分の見方や感じ方を広げている。

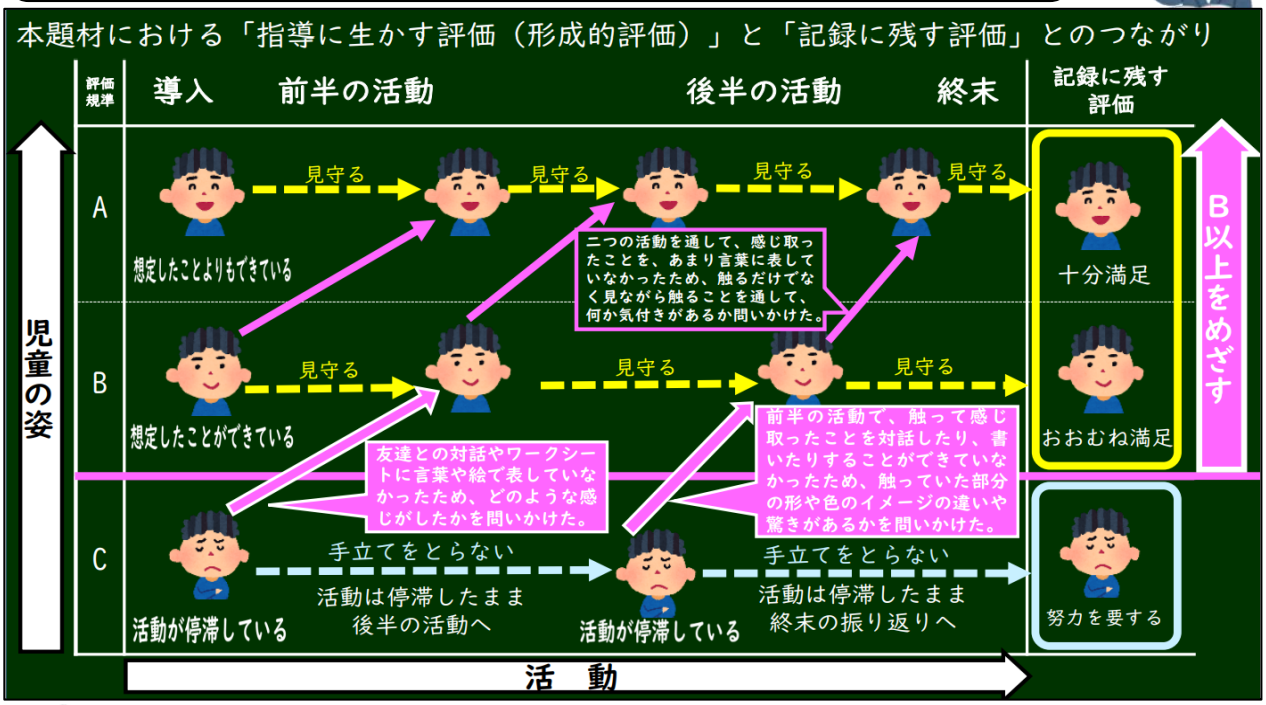
A　触るだけでなく、見ながら触って分かった形や色、質などの感じを基に、これまでの経験と関連付けながら、自分のイメージをもって、造形的なよさや面白さなどについて、感じ取ったり考えたりして、友達と伝え合い、ワークシートに言葉や絵で表すなど、自分の見方や感じ方を広げている。

B　触るだけでなく、見ながら触って分かった形や色、質感などの感じを基に、自分のイメージをもって、造形的なよさや面白さなどについて、感じ取ったり考えたりして、友達と伝え合い、ワークシートに言葉や絵で表すなど、自分の見方や感じ方を広げている。

C　感じ取ったり考えたりしたことについて、友達と話したり、ワークシートに言葉や絵で表したりしていない。

(2)　本題材における「指導に生かす評価（形成的評価）」と「記録に残す評価」とのつながり

本題材では、「指導に生かす評価（形成的評価）」の判定基準として、前半の活動を設定しています。全ての児童が本時の目標を達成するために、教師の手立てを必要としている児童を見取る、一つの判定基準として位置付けています。



前半の活動に設定した「判定基準」のＢ以上とならないと、全ての児童は、「おおむね満足できる状態（Ｂ）」に到達しないという考え方で、その後の指導に生かすとよいのですね！

(3)　観点別学習状況の評価「思考・判断・表現（鑑賞）」の総括の例

ア　前半の活動において、「Ｃ」であったが、教師の問いかけによって「Ｂ」に判断した児童の例

＜Ｄ児＞
　前半の活動において、箱の中のお面を触り、形や質感などを探っていたが、友達との対話やワークシートに言葉や絵で表していなかったため、どのような感じがしたのかを問いかけると、「ふわふわ」「穴がある」などの短い言葉で表すことができたため、「Ｂ」と判断した。

イ　前半の活動において、「Ｃ」であったが、後半の活動を通して、「Ｂ」と判断した児童の例

＜Ｅ児＞
　前半の活動において、箱の中のお面を触って感じ取ったことを友達と対話したり、ワークシートに書いたりすることができず、「Ｃ」であったが、後半の活動において、触っていた部分の形や色のイメージの違いや驚きがあるのかを問うと、見ながら触って初めて分かったことを述べたため、「Ｂ」と判断した。

ウ　二つの活動を通して、「Ｂ」であったが、活動終末において「Ａ」と判断した児童の例

＜Ｆ児＞
　二つの活動を通して、感じ取ったことを友達との対話やワークシートにあまり表しておらず、「Ｂ」としていたが、活動終末の振り返りの場面において、触るだけでなく見ながら触ることを通して、何か気付きがあるか問いかけたところ、友達の考えやこれまでの日常生活における経験と関連付けて造形的な面白さを述べたため、「Ａ」と判断した。

事例３　キーワード…高学年、立体に表す活動と鑑賞する活動を相互に関連させた題材における指導と評価の計画から評価の総括まで

1　題材名　「〇〇な光の形　～光と白いスポンジを組み合わせて表そう～（立体に表す）」

2　題材の概要

本題材は、第５学年において、メラミンスポンジやカラーストローに光を当てたり、段ボールカッターで形を変えたりして立体に表す活動や鑑賞する活動を通して資質・能力の育成を目指す題材です。

3　題材の目標

(1)・自分の感覚や行為を通して、形や色などの造形的な特徴を理解する。
・活動に応じてＬＥＤライトやメラミンスポンジを活用するとともに前学年までの段ボールカッター、接着剤などについての経験や技能を総合的に生かしたり、表現に適した方法などを組み合わせたりするなどして、表したいことに合わせて表し方を工夫したりして表す。

(2)・形や色、動き、バランス、色の鮮やかさなどの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもち、メラミンスポンジに光を当てたり形を変えたりして感じたことから、表したいことを見付け、形や色、材料の特徴、構成の美しさなどの感じ、用途などを考えながら、主題を表す方法について考える。
・自分や友達の作品の造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深める。

(3)・主体的に光がつくりだす形や色などの造形的な特徴を生かして表現や鑑賞をする学習活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。

4　題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・自分の感覚や行為を通して、光がつくりだす形や色、動きやバランス、色の鮮やかさなどの造形的な特徴を理解している。 ・活動に応じてＬＥＤライトやメラミンスポンジを活用するとともに前学年までの段ボールカッター、接着剤などについての経験や技能を総合的に生かしたり、表現に適した方法などを組み合わせたりするなどして、表したいことに合わせて表し方を工夫したりして表している。	・形や色、動き、バランス、色の鮮やかさなどの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもち、メラミンスポンジに光を当てたり形を変えたりしながら感じたことから、表したいことを見付け、形や色、材料の特徴、構成の美しさなどの感じ、用途などを考えながら、主題を表す方法について考えている。 ・形や色、動き、バランス、色の鮮やかさなどの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもちながら、自分や友達の作品の造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めている。	つくりだす喜びを味わい、主体的に光がつくりだす形や色などの造形的な特徴を生かして表現や鑑賞をする学習活動に取り組もうとしている。

5　材料・用具

ＬＥＤライト、メラミンスポンジ、カラーストロー、段ボールカッター、はさみ、木工用ボンド

6　指導と評価の計画（３時間）

○･･･題材の評価規準に照らして、適宜、児童の学習状況を把握し指導に生かします。
◎･･･題材の評価規準に照らして、全員の学習状況を把握し記録に残します。

時間	●学習のねらい　・学習活動	知	技	思 発想構想	思 鑑賞	態	留意点等
1・2	●形や色、動き、バランス、色の鮮やかさなどを基に、自分のイメージをもち、メラミンスポンジに光を当てたり形を変えたりしながら感じたことから、表したいことを見付け、形や色、材料の特徴、構成の美しさなどの感じを考えながら、どのように主題を表すかについて考える。 ・ＬＥＤライトの光やメラミンスポンジ、カラーストローを使って、立体に表す。	○ 観察 対話 ワークシート	◎ 観察 対話 作品 ワークシート	◎ 観察 対話 作品 ワークシート			本題材が光や材料、材料同士の組合せなどから主に発想や構想をすることから、「知識」については、「思考・判断・表現（発想や構想）」に関連させて、児童の活動の様子を観察する、問いかけるなどして、児童の学習状況を把握し、適宜、指導に生かします。 「技能」については、観察する、問いかける、ＩＣＴ機器を用いて記録する、ワークシートを用いるなどして、「思考・判断・表現（発想や構想）」と関連させて、全員の学習状況を把握し、記録に残します。 「思考・判断・表現（発想や構想）」については、観察する、問いかける、ＩＣＴ機器を用いて記録する、ワークシートを用いるなどして、全員の学習状況を把握し、記録に残します。
3	●自分や友達の作品の造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深める。 ・主題を伝え合い、作品を相互に鑑賞する。	◎ 観察 対話 作品カード ワークシート			◎ 観察 対話 作品カード ワークシート	◎ 観察 対話 作品カード ワークシート	「知識」については、「思考・判断・表現（鑑賞）」と関連させて、観察する、問いかける、ＩＣＴ機器を用いて記録する、ワークシートを用いるなどして、全員の学習状況を把握し、記録に残します。 「思考・判断・表現(鑑賞)」については、観察する、問いかける、ＩＣＴ機器を用いて記録する、ワークシートを用いるなどして、全員の学習状況を把握し、記録に残します。 「主体的に学習に取り組む態度」については、活動を通しての観察、授業後や題材終末の振り返り、ＩＣＴ機器を用いた記録、ワークシートなどを用いて、全員の学習状況を把握して記録に残します。

7　観点別学習状況の進め方

(1)　事例における観点別学習状況の判断の例

題材の評価規準		☆Ｂの具体例　◆Ｃへの手立て
知識	自分の感覚や行為を通して、光がつくりだす形や色、動きやバランス、色の鮮やかさなどの造形的な特徴を理解している。	☆立体に表す活動や鑑賞活動を通して、光とメラミンスポンジ、カラーストローがつくりだす形や色、動き、バランス、色の鮮やかさなどの造形的な特徴などを理解している。 ◆光とメラミンスポンジ、カラーストローがつくりだす形や色などの造形的な特徴に気付くような言葉かけを行う。
技能	活動に応じてＬＥＤライトやメラミンスポンジ、カラーストローを活用するとともに前学年までの段ボールカッター、接着剤などについての経験や技能を総合的に生かしたり、表現に適した方法などを組み合わせたりするなどして、表したいことに合わせて表し方を工夫したりして表している。	☆ＬＥＤライトやメラミンスポンジ、カラーストローがつくりだす形や色などの造形的な特徴、材料の特徴などを表現方法に応じて活用し、段ボールカッター、接着剤など、これまでの経験や技能を生かしたり、表現に適した方法などを組み合わせたりしながら、表したいことや主題に合わせた表し方を工夫して表している。 ◆表したいことに合わせて、表し方を工夫して表すことができるように、自分のイメージに合ったメラミンスポンジの形や組合せを問いかけたり、段ボールカッター、接着剤などの使用方法について補助的に説明したりするなど、表現に適した方法などを一緒に考える。

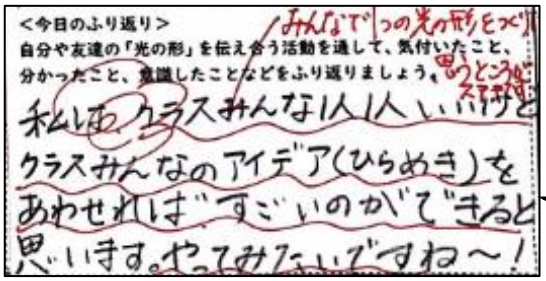
思考・判断・表現（発想や構想）	形や色、動き、バランス、色の鮮やかさなどの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもち、メラミンスポンジに光を当てたり形を変えたりしながら感じたことから、表したいことを見付け、形や色、材料の特徴、構成の美しさなどの感じ、用途などを考えながら、主題を表す方法について考えている。	☆メラミンスポンジに光を当てたり形を変えたりしながら感じたことを基に、自分のイメージをもちながら、形や色などの造形的な特徴、材料の特徴、構成の美しさなどを考え、表したいことを見付けたり、ワークシートを使ったりするなどして、主題をどのように表すかについて考えている。 ◆自分のイメージをもてるように、形や色などの造形的な視点を示したり、メラミンスポンジに光を当てたり形を変えたりする様子を見て感じたことから、表したいことを見つけるよう促す。
思考・判断・表現（鑑賞）	形や色、動き、バランス、色の鮮やかさなどの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもち、自分や友達の作品の造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めている。	☆友達との対話を通して、形や色、動きやバランス、色の鮮やかさなどの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもちながら、友達の作品の造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化、作品の主題などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めている。 ◆形や色などの造形的な特徴を基に、友達の作品の造形的なよさや美しさに目を向けることができるような言葉かけを行う。
態度	つくりだす喜びを味わい、主体的に光がつくりだす形や色などの造形的な特徴を生かして造形遊びをしたり、表現や鑑賞をしたりする学習活動に取り組もうとしている。	☆光を当てると美しく見える形や光、材料の特徴、構成の美しさなどの造形的な特徴を考えながら、どのように主題を表すかについて考えていたり、友達の作品を鑑賞したりしている。 ◆児童の意欲を高めるために、ＬＥＤライトの光をメラミンスポンジやカラーストローに当てて見える形や色について問いかけ、気付いたことやできそうなこと、感じたこと、考えたことなどを尋ねる。

(2)　本題材における指導と評価の実際

時間	学習活動（・）	評価の実際	
		観点	評価の実際（評価の方法等）
1・2	・メラミンスポンジやカラーストローをＬＥＤライトの光に透かして材料を試し、表したいことを見付ける。 	知〇	「思考・判断・表現（発想や構想）」と関連付けて、形や色などに着目している様子を観察や対話から学習状況を把握し、学習指導に生かした。　（観察、対話、ワークシート） 厚さの違うメラミンスポンジやカラーストローをＬＥＤライトの光に透かし、色を確かめています。光に透かして分かったカラーストローの色を自分のイメージにつなげようとしていることが分かります

1・2	・メラミンスポンジに光を当てたり形を変えたりしながら感じたことから、主題を意識しながら表したいことを見付ける。 	思◎ (発・構)	表したいことを考えて見付けている様子を、主にワークシートへの記述や対話から学習状況を把握し、記録に残した。 （観察、対話、作品、ワークシート） 材料を光に透かしたり、スポンジにストローを突き刺したりして試した経験を基に、形や色、置きたい場所などを意識しながら、ウェビングマップを使って、作品のイメージを広げています。自分のイメージ表したい形や色を構想している様子が分かります。 作品の構成を確かめながら、次に表したいことを考えている様子を、主に観察や対話から学習状況を把握し、記録に残した。 （観察、対話、作品、ワークシート） 加工して組み合わせたメラミンスポンジやカラーストローの形や色、バランス、構成の美しさなどを光の当たる角度を変えて確かめています。また、その様子から、次の表し方を考えている様子がうかがえます。
	・形や色、材料の特徴、構成の美しさなどの感じを考えながら美しい表し方を工夫して立体に表す。 	技◎	「知識」と「思考・判断・表現（発想や構想）」を関連付けて、表し方を工夫して表している様子を、対話やワークシート、作品カードへの記述から学習状況を把握し、記録に残した。 （対話、作品、作品カード、ワークシート） メラミンスポンジとカラーストローの厚さや長さ、色の順番、配置などを考え、光の当たる角度を調節するなど、自分のイメージに合うように工夫して表しています。
3	・主題を伝え合い、作品を相互に鑑賞する。 	知◎	形や色などに着目して鑑賞している様子を、主に観察や対話から学習状況を把握し、記録に残した。 （観察、対話、ワークシート） 光が通す色と、メラミンスポンジやカラーストローの仕組みを確かめています。形や色などの造形的な特徴を理解しながら鑑賞をしている様子が分かります。

<table>
<tr>
<td rowspan="2">3</td>
<td> </td>
<td>思◎
（鑑賞）</td>
<td>作品を鑑賞している様子を、主に観察や対話から把握し、記録に残した。
（観察、対話、ワークシート）

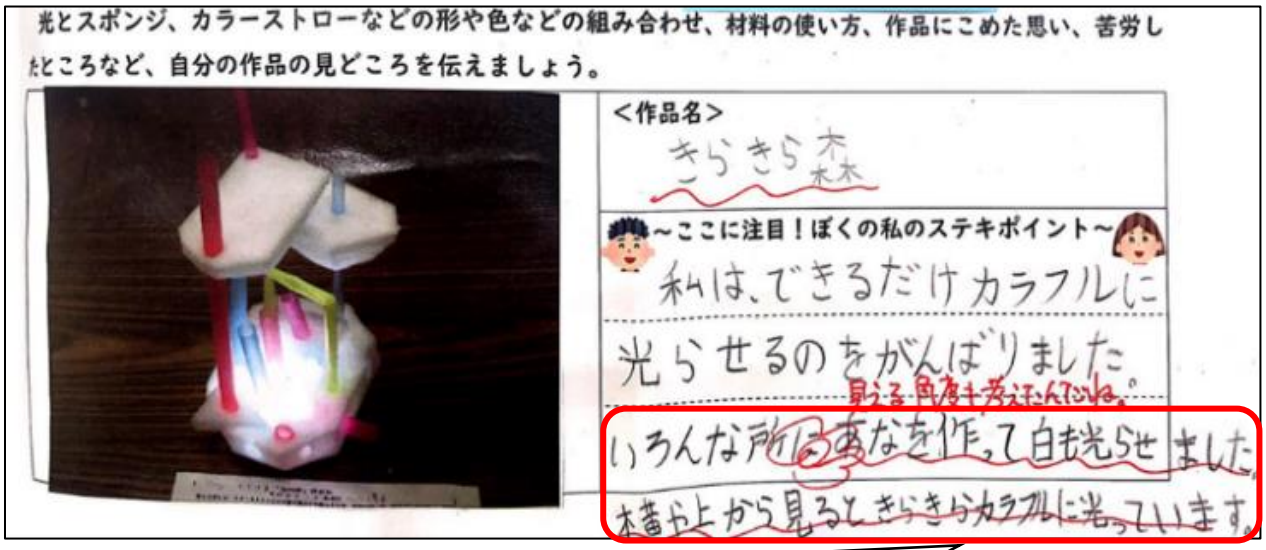
友達が書いた作品カードと作品を確認し、友達との対話を通して、見る角度によって変わる作品の造形的なよさや美しさ、表したいことなどを感じ取ったり考えたりしている様子がうかがえます。</td>
</tr>
<tr>
<td>・本題材を通じて、感じたことや気付いたことなどを学級全体で交流して活動を振り返る。
 
</td>
<td>態◎</td>
<td>学習活動全体を通して把握してきた「主体的に学習に取り組む態度」の学習評価を踏まえて、記録に残した。
（観察、対話、作品カード、ワークシート）

本題材の表現及び鑑賞をする活動を通して、学級の友達と共同して造形活動をしたいと記述していることから、造形への意欲の高まりが感じられます。</td>
</tr>
</table>

(3)　作品カードやワークシートの活用

図画工作科は、形として残る作品だけで評価せず、つくる過程における児童の活動の様子を観察し、問いかけたり声をかけたりしながら児童の思考や行為を見取っていきます。イメージを広げ、作品の構想を考えたり、作品を鑑賞する活動を通して感じ取ったり考えたりして深まった造形的な見方・考え方などを見取る上で評価の有効な方法の一つになるのが、「思考の足跡」となる作品カードやワークシートです。

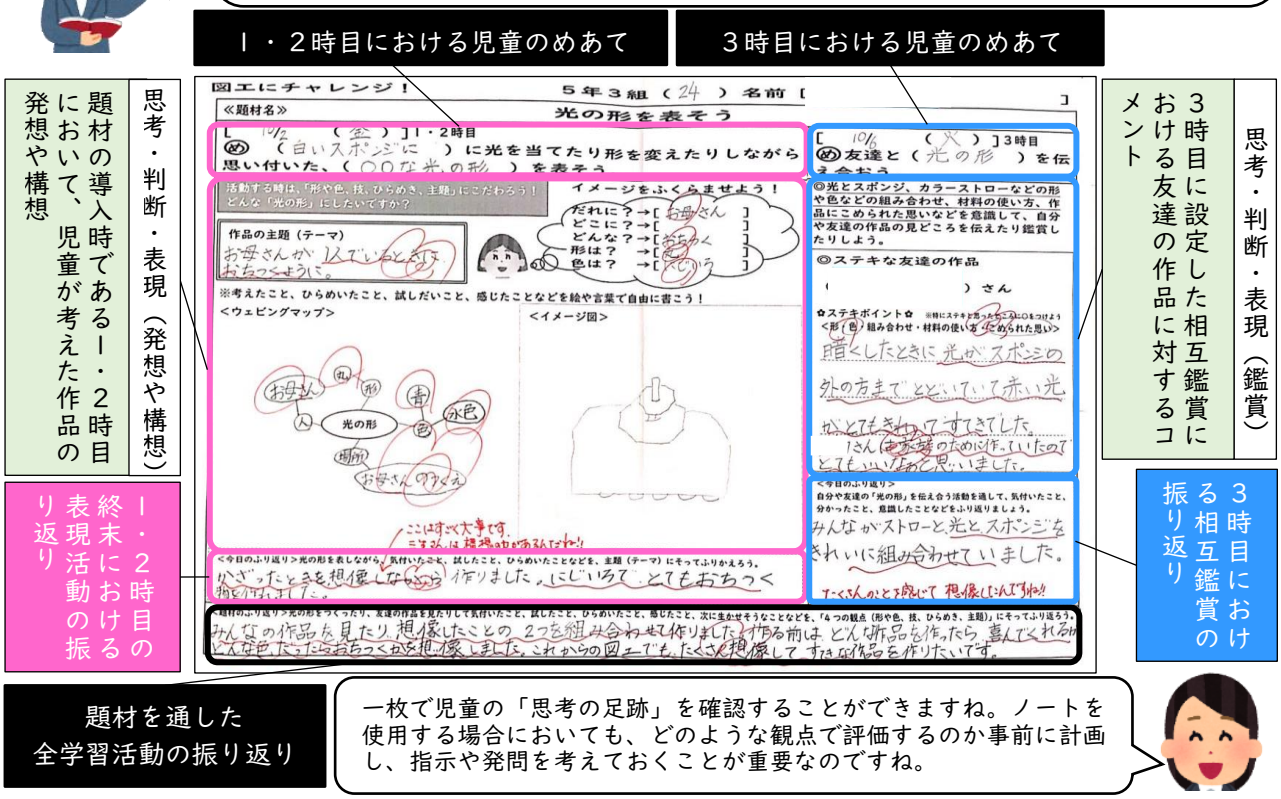
作品カード



ＬＥＤライトの光と、材料であるメラミンスポンジやカラーストローの組合せ方を試しながら、光の加減やスポンジの白の効果を考えて、キラキラと光る森をイメージしながら工夫して表したことが分かり、「技能」の観点で見取ることができます。

ワークシート

児童の活動における行為の見取りが基本となりますが、見取ることができなかった児童の「思考・判断・表現（発想や構想、鑑賞）」を文字化されたワークシートによって補い、評価に生かしていきます。また、「知識・技能」や「主体的に学習に取り組む態度」などの他の観点についても、評価資料として補填することができます。



一枚で児童の「思考の足跡」を確認することができますね。ノートを使用する場合においても、どのような観点で評価するのか事前に計画し、指示や発問を考えておくことが重要なのですね。

8　観点別学習状況の評価の総括

授業後に行う観点別学習状況の評価における総括の進め方を教えてください。

「知識・技能」では、「知識」と「技能」を、「思考・判断・表現」では、「思考・判断・表現（発想や構想）」「思考・判断・表現（鑑賞）」を考え合わせて総括することになります。その際に、年間指導計画上の題材の位置付けを考慮する必要があります。

観点別学習状況の総括のポイント

例：題材名「〇〇な光の形」

本題材で記録に残さなかった資質・能力は、どうしたらいいですか。

本題材の特性

- 材料の形や色などの組合せから自分のイメージを広げて発想や構想をしていく題材
- 表現及び鑑賞の活動を相互に関連させた題材

本題材における評価の視点

- 「A表現」における「技能」と「思考・判断・表現（発想や構想）」を重視して評価の総括を行っていく
- 表現及び鑑賞の活動における、〔共通事項〕の「知識」と「思考・判断・表現」の「発想や構想」、「鑑賞」を合わせて評価

年間指導計画上の位置付けを考慮する

・「A表現」の「知識」
・「B鑑賞」の「思考・判断・表現」
→二つの資質・能力を見取る活動を、今後行う題材の中で設定していく

「本題材では、ここを重点的に見る！」と割り切り、別の題材で補いましょう。

本事例における観点別学習状況の評価の総括の例

氏名	観点		記録に残す評価	総括	メモ（活動中の見取り）
G児	知技	知識	A	A	材料を組み合わせてできる形や色などの造形的な特徴を理解し、表現につなげている。
		技能	A		段ボールカッターを適宜用い、材料の特徴を理解した上で表したいことに合わせて工夫して表していた。
	思	発想や構想	A	A	材料の形や色などを基に、自分のイメージに合わせて表すことができていた。
		鑑賞	B		
	態		A	A	ワークシートや作品カードへの記述は、あまり多くなかったが、全学習活動において、主体的に取り組み、作品をつくっていた。
H児	知技	知識	B	B	
		技能	C		メラミンスポンジ同士の接合に悩んでいた→木工用ボンドを使用することを進め、使い方を指導→それでも、うまく接合できない。
	思	発想や構想	B	B	
		鑑賞	A		友達の作品の色に着目しながら、主体的に鑑賞する。
	態		B	B	
I児	知技	知識	A	B	友達の作品を光に透かし、材料の組合せからできる形や色の特徴を理解し、鑑賞していた。
		技能	B		
	思	発想や構想	A	A	材料を組み合わせてできる形や色の特徴からイメージを広げていた。
		鑑賞	A		友達の思いと作品の形や色に着目して鑑賞することができていた。
	態		A	A	全学習活動において主体的に取り組み、作品をつくっていた。

(1)　「思考・判断・表現」の総括の例

＜G児＞
「思考・判断・表現（鑑賞）」において、友達の作品を光に透かし、材料の組合せからできる形や色の特徴を理解し鑑賞しており、「B」であったが、「思考・判断・表現（発想や構想）」において「A」であったため、「A」と判断した。

＜H児＞
「思考・判断・表現（鑑賞）」において、友達の作品の色に着目しながら主体的に鑑賞し、「A」であったが、「思考・判断・表現（発想や構想）」において「B」であったため、「B」と判断した。

(2)　「知識・技能」の総括の例

＜H児＞
「技能」において、メラミンスポンジ同士の接合に悩み、活動が停滞していたため、木工用ボンドの使用を進め、使い方を提示したが、接合がうまくできなかったため、「C」とした。しかし、「知識」において、表現活動と鑑賞活動の両場面で、形や色に着目しながら活動したため、「B」と判断した。

＜I児＞
鑑賞時における「知識」において、友達の作品を光に透かし、材料の組合せからできる形や色の特徴を理解し、鑑賞しており、「A」としたが、「技能」において「B」としたため、「B」と判断した。

(3)　「主体的に学習に取り組む態度」の総括の例

＜G児＞
活動の様子、発言、ワークシート、作品、作品カードを基に、総括的に評価を行ったが、主に活動の様子や発言を重点において評価を行った。ワークシートや作品カードへの記述は、他の児童と比べ、あまり多くなかったが、全ての学習活動において主体的に取り組んでいたため、「A」と判断した。

ワークシートや作品カードからは読み取れない、活動時における主体的な活動の様子を観察する必要があります。記録に残す評価の回数や場面に応じて総括するなど、あらかじめ計画を立てておくことが大切です。

10　Q＆A

Q１　評価が主観によって左右されないか不安です。どのようにしたらよいですか。

A　図画工作科における評価は、直感的な判断力と児童の活動の様子を捉える質的評価※になります。その質的評価の精度や信頼性を高めるには、児童理解を深めるとともに、教師の指導力を向上させることが欠かせません。日々の教育活動を基に研修などを通して、自身の評価能力を高めましょう。例えば、研修機関が開く研修会への参加や校内研修などで、教職経験の違う他の教師と自分の見方や考え方を出し合い、他者と異なることを認識した上で、指導と評価の改善の方向を見出すことが大切です。

※質的評価…感想文や振り返りシートなどの文章、作品や実演、観察や応答などによって質的に表現する評価のこと

また、一つの題材を長時間設定するのではなく、年間指導計画において、できるだけ数多くの題材を設定し、一つの観点の評価を積み重ねて、信頼性を高めることも重要です。

Q２　「おおむね満足できる」姿とは、児童のどのような姿ですか。

A　児童の発達の段階を踏まえて、「しようとしていること・していることが、当たり前にできている状況」と言えます。

例:はさみの刃先よりも刃元で切る方が切りやすい、はさみをもっている手ではなく、紙を回転させて切る方がきれいに切れるなどを理解した上で当たり前に活動している姿　など

図画工作科における評価は、実際で見取る「観察法」が最も評価の信頼性を生むことになります。「観察法」は、他の教科でも多く用いられる評価方法です。観察を通して、減点主義ではなく、加点主義という意識を念頭に置き、児童の活動の良い点を見取っていきましょう。

Q３　１回（１単位時間）の授業で３観点の全てを評価するのでしょうか。

A　評価しません。

「第１章　総説　１(２)③『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善の推進」において、単元や題材などの内容や時間のまとまりを見通して、資質・能力の育成を図る授業改善を進められることが示されたと述べられています。これは１回１回の授業で全ての学びが実現されるものではなく、単元や題材などの内容や時間のまとまりの中で学習を振り返る場面を設定するなどの指導の工夫を示しています。評価も同様に、授業ごとに全ての評価項目を見取ることを計画しても、真に児童の姿を評価せずに「評価のための評価」になる恐れがあります。

また、図画工作科の学習指導要領解説の「第４章　指導計画の作成と内容の取扱い　２(４)」には、「活動の全過程を通して、児童が実現したい思いを大切にしながら」とあります。そこで「自分のよさや可能性を見出す」とありますので、全過程で見いだした「よさや可能性」を個人内評価として記録したり、「主体的に学習に向かう態度」としたりして、次の題材で指導に生かすなどの工夫が大切です。

特に、「主体的に学習に向かう態度」の評価に関しては、題材を超えて見出すものと考え、挙手の回数や忘れ物の数などで決めることがないよう注意が必要です。

Ｑ４　授業で一人一人のよさを見取る評価方法には、どのようなものがありますか。

Ａ　「観察＝児童を見るまなざし」を最も大事にしましょう。

図画工作科の場合、結果としての作品を観察するのではありません。活動する児童と同じ目線に立って観察することでしか見えない児童のよさや可能性を見出すというスタンスです。ここでいう「観察」は、児童の造形活動における行為などを見取ることです。図画工作科では、「観察」することを基本とします。

ただし、授業の際の「観察」だけでは十分に児童の姿を見取ることは難しいと考えられますので、「対話」や「児童による記述」、「作品」など、多様な視点からの見取りを行うことに努めましょう。

①観察

座席表・フィールドマップなどへの記録（つくりつつある活動での見取り、児童の発話・対話など）、デジタルカメラ・タブレット端末による教師の記録などが考えられます。

②対話

児童による教科特有の形や色との対話、材料や対象との対話（デジタルカメラ・タブレット端末による児童の記録など）、褒めたり質問したりする「問いかけ」による教師と児童の対話、児童同士の対話などが考えられます。

③児童による記述

ノート、ワークシート、作品カードなどへの記述など、児童による造形活動の「文字化」は、自身を対象化し、客観的に見つめ直す機会にもなります。ただし、実際の記述に際しては、文章を書くことに多くの時間を費やしたり、過度に自己評価を課したりすることは避けましょう。

④作品

つくりつつある作品などを指導計画に即して撮影し、写真を時系列に並べて書き込みを加えることができるポートフォリオは、題材終末において、児童自身が学習過程を振り返り、自らの成長を感じ取ることができます。また、児童一人一人の資質・能力の表れを見取ることができると考えられます。

参考文献

・文部科学省　小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説　図画工作編　2018 年　日本文教出版
・国立教育政策研究所　教育課程研究センター　「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【小学校　図画工作】2020 年　東洋館出版社
・阿部　宏行　「図工を通して　子どもがもっと好きになる　評価のＡＢＣ」　2020 年　日本文教出版
・岡田　京子　「小学校図工　指導スキル大全」　2019 年　明治図書